

第4回飯田市社会福祉審議会児童福祉分科会（飯田市版子ども・子育て会議）

第4回飯田市次世代育成支援対策地域協議会 議事録

日時 令和6年10月23日（水）13:30～15:45

会場 上郷公民館 2階講堂

出席者（委員）：原委員、秋山委員、松村委員、塩澤委員、渋谷委員、黒河内委員、村松委員、湯本委員、藤本委員

（事務局）：山崎こども未来健康部長、筒井こども課長、宮嶋保健課長、高山こども課長補佐兼子育て支援係長、片桐こども課長補佐兼こども相談係長、北沢こども課発達支援係長、小笠原こども課発達相談担当専門技査、牛山保育家庭課長補佐兼施設管理係長、齊藤保育家庭課保育係長、飯島保育家庭課家庭相談係長、矢澤保健課長補佐兼保健指導係長、福澤保健課長補佐母子保健係長、木下学校教育課児童クラブ係長

（司会）：高山こども課長補佐兼子育て支援係長

1 開 会

2 原会長あいさつ

賑やかだった市長選も終わりましたが、国政の選挙も行われます。市長選で3人の候補が述べていましたが、子育て支援の話があまりなく残念に思います。自治体の集団を維持し、人口が減っていくことに歯止めをかけていくためには、それなりのメンバーがいなければ維持できないと思いますが、そういった議論が候補者から出てこなかったこと、またこの会議の皆さんで練っていることが、政策立案の表舞台に出てこないことが残念だと思いました。

このあと飯田市こどもまんなかプランの素案を説明していただきますが、未定稿のため非公開としますので取扱いにはご注意をお願いしたいと思います。説明を聞いた後、皆さんの忌憚のない意見を聞かせてもらいまして、いいプランにしていけたらと思います。

3 こども未来健康部長あいさつ

先月の分科会に欠席させていただきましたが議事録を拝見し、活発なご協議をありがとうございました。

未来デザインの後期計画についてですが、原案を9月にお示しさせていただき、勇気づけられるご意見を頂戴いたしました。その後、市議会の提言や市民会員からのご意見を踏まえまして、12月議会へ議案として提出していくために、案として修正を加えてまとめているところでございます。

本日は、先月の分科会で名称をご決定いただきました「飯田市こども・若者まんなかプラン」について素案をお示しさせていただき、ご説明を申し上げたいと思います。委員の皆さんの忌憚のない意見を聞かせていただき、プランに反映させていきたいと考えていますので本日はよろしくお願いいたします。

4 協議事項

(1) 飯田市こども・若者まんなかプラン素案について

(高山こども課長補佐兼子育て支援係長より資料 No. 1 の説明)

意見質問事項

A 委員	「計画策定にあたって」のところについて、このプランの最終的な目標は人口増加に資することだと思っておりますので、計画策定の目的の中に入れていただきたいです。子育て支援計画などのプランについて、市民の中で「関係ない」と思われる方が多いため、この計画を実施することによって、1 番の課題でもある人口の減少を止めるためのものということをより多くの市民の皆さんに分かっていただきたいと思います。このプランには重要性があるということを分かってもらい、興味をもってもらえるようにしたいと思います。 成果指標に新たに 4 つ加えるということについては、良いと思います。「飯田市が好き」という回答の割合や「飯田市にずっと住みたいか」など、こどもたちや若者がどのように思っているのかが見えてこないため、これを示していくのはいいかと思います。回答数は低いとご説明がありましたが、こどもや若者の皆さんがどう思っているのか捉えることは重要なことだと思います。
B 委員	指標を新たに加えるということで「飯田市が好きだ」「明るい希望がある」「飯田市に住み続けたい」など、小 4～中 3 のこどもに回答してもらうことになると思います。そのため、こどもたちに直接アプローチする施策が必要になってくると思います。事業の一覧を見ていくと、保護者やまわりの大人にはたらきかけたり支援したりする事業が多いため、こどもに直接何ができるのかということが大切だと思いました。小中学校で今やっているキャリア教育が、すごく大きな意味を持ってくるのではないかと感じます。こども自身が感じたり学んだりし、どう思うのかということが大事になってくると思うため、今やっているキャリア教育の推進事業のみでいいのか、現状値と令和 11 年度の目標値を出すのであれば、まわりの大人への支援も大事ですが、こども自身が「飯田市っていいじゃん」と思えるようなはたらきかけが大事になってくるのではないかと思います。
事務局	いただいた意見は教育委員会に持ち帰らせていただき、反映させることを検討していきたいと思います。
A 委員	こどもたちが飯田で教育を受けた時に「よかった」と思えば、一旦は飯田から出て「帰ってきたい」という思いが生まれますので、地域のことをよく知る教育はとても重要だと感じます。この地域はすごくいいところだということを学校で教育して理解してもらうことは大事だと思います。
事務局	産業経済部でも学校と連携して、地元の様々な企業や事業所でこどもたちが仕事を体験したり、夏休みの体験をしたりする取組みを行っています。
B 委員	「飯田市こども・若者まんなかプラン」ができるため、飯田市は様々な取り組みを行っていることを、こどもが知る機会を学校で提供することで、飯田市に「住み続けたい」や、「飯田市が好き」という思いにつながると思います。大人への周知も

	大事ですが、小中学生に継続的に知ってもらい授業などを行っていただくと、アンケート調査の数値が上がることもつながると思いました。こどもたちにこのプランを知ってもらいたいと強く感じました。
事務局	その通りだと思います。実際に今回ウェブ調査を使ってダイレクトにこどもに情報がいき、ウェブ調査を通して回答として返ってくるというやりとりが出てくると、よりこどもたちの世界が現実として見えてくると思います。ウェブ調査を通してできなかったこと、できたことがあるため、それを踏まえつつ今までとは別のルートを使って、保護者やこどもたちに情報を届け、さらにリターンすることができるような取組について検討していきたいと思います。
A 委員	やはり情報戦略はとても大切になると思います。今までの子育て支援は限られた人だけのものということがあったと感じますが、そうではないということを様々な世代の人に伝えていけるといいと思います。第6章「計画の推進に向けて」というところに、「家庭・地域・社会・企業（事業所）」とありますが、ここにあるところ全てに情報を流し、プランを理解してもらうことが情報戦略だと思います。 1つ提案ですが、飯田市で毎月何人生まれているのかといった情報を広報してほしいと思いました。「この施策で何人生まれたんだ」と、1つの KPI になっていくのではないのでしょうか。情報戦略として広く公表していただけたらいいかと思いました。
事務局	例えば令和3年は1年間で687人生まれており、単純に12か月で割ると月に57.25人程となります。過去5年間の出生数は減少しておりますが、KPIとして出生数は管理しております。目標値に入れて一覧に載せるかというところは議論が必要だと思っております。生まれてきたこどもばかりではなく、移住してきているこどもも大切ですので、0～14歳の人口の数を示しているというところです。
A 委員	0～14歳の数も毎月公表したらいいのではないのでしょうか。情報として出てくると様々な世代の人たちが見るため、成果で数字として感じやすいと思います。
C 委員	発達センターひまわりの運営についてですが、建物が手狭なところや発達支援の必要なこどもが増えている中で、通園部門と相談部門があり、継続的に通いたいということで相談しに行く方が多いと思います。相談数が多いため月に1回受けられるか受けられないかというところで、「意味があるのか」という声があったため、考えていつていただきたいと思います。切れ目のないということで、もう少し発達センターひまわりで何かできることが増えたらいいと思います。 放課後こども教室についてですが、「地域の運営主体を支援していきます」「地域が行う人材確保の取組に協力して、運営が行われるように支援していきます」とあります。経済的、人的、情動的などどのような支援をしていこうとしているのか、もう少し見えるといいと思います。 地域こどもの生活支援について、公民館が行っている寺子屋などは支援がしやすいのかもしれませんが、個人で夏休みにこどもの居場所をやられているところは、保護者から利用料をいただいて運営しています。精一杯やったださっている中

	でどのような支援ができるのかをこれから考えていってほしいと思いました。
事務局	発達センターひまわりについてですが、障がいのある方はこどもだけではないため、長いスパンで考えていかなければならないと思っており、様々な人たちが安心して活躍できる社会体制をつくっていく必要があります。発達センターひまわりでできることを考えていきますし、現在、広域連合が中心になって体制の整備を検討していますので、お時間を頂戴できればと思います。 地域の支援についてですが、経済格差の広がりや夏休みを中心としたこどもの居場所は、今回策定するプランの中でもとても重要課題だという認識でいます。具体的な取組についてはまだ至らないですが、財源的な問題や公民館活動との区分の問題もあります。様々な地域の住民が主人公になり、地域のこどもを子育てするという熱い思いをどのように受け止め、後押しする形はどうしていくのか、市も考えていますが国もこどもの居場所づくりを所管する場所が決まっておらず、形もはっきり決まっておりません。こういった中でどのように地元や地域のみなさんをサポートしていくのかについて、難しい部分でもあります。したがって、こういった分科会の中でご発言をいただければと思います。 本日の資料については非公開ですが、委員の皆さんとして足りないものを寄せていただき、それを踏まえた政策づくりをしていきたいと思っています。予算の意味合いもありますので、集中してご意見を頂戴し、具体的なお提案も寄せていただければと思います。
D 委員	このプランをしっかりと PR することは必要だと思いました。1つはウェブだけでなく、文字として必要な人には打ち出すことも大切だと思っています。 もう1つはこのプランには様々なことが点在しすぎてしまっているように感じます。飯田市は絵本を乳幼児期にプレゼントしていることについて、大切な取組みであると感じました。反対におめでとう赤ちゃんの訪問事業として紙おむつの処分費支援として、4か月の世帯にごみ袋を支援しているとしていますが、おむつが1歳、2歳と続いていくことに対して、支援が中途半端ではないかと感じました。申請があればおむつ袋は無料でもらえる取組みが定着している他市の支援もありますので、今後検討して飯田市のいいところと目玉になることを厳選し、PRしていくこともいいかと思いました。 最終的には人口増加が目的というところで、飯田市にやま保育の取組みがあると思っています。以前、申込みが多数ありお断りする状況という報告がありましたが、お断りするのではなく対応していくシステムをつくっていかなければ全く目玉にはならないのではないかと思います。今までやってきたことをきちんと対応することで、できることがたくさんあります。1つの広報活動のやり方として検討していただきたいと思います。
事務局	この事業自体が人口問題でもありますので、網羅的なプランになってしまうことはやむを得ないかと思います。但し、ご指摘いただきましたようにどこに今回のプランの目玉があるのか、市民の皆さんへの分かりやすさというところは大事なこ

	とだと思いますので、老若男女に分かりやすいダイジェスト版は用意していきたいと思っております。
E 委員	飯田市の前に足元のところとなるのが、こども、若者、お年寄りなど様々な年齢層がいらっしやり、組織として入っていらっしやる公民館活動であり、自分の住んでいる地区が「楽しい」「こんな人がいるんだ」と思ってもらえるように、上手くつながっていくといいかと思いました。様々な地区があり必ず公民館があるため上手くつながっていくことで、下から吸い上げたり上から下ろしたりすることがしやすい組織ではないかと思いました。
事務局	大事なお指摘をいただいたと思います。公民館単位がこどもの視野の幅からしたら適度な範囲かと思えます。公民館ではしっかりやったださっているの、地区内で十分に知られるということに注力すべきなのかもしれません。今年は夏休みの取組を飯田市全体で情報発信をしましたが、公民館活動については地域での活動でやりたいということで、意図的に公民館単位の取組は意図的に情報発信は抑えました。やはり地区の取組はどう支援していくのか、継続的に検討していく必要があることを感じました。
F 委員	公民館についてですが、運動会で伊賀良や松尾などは、中高校生に運営を任せてやっており、運動会自体が大きく変わり、中高生が参加をするようになりました。それを受けてこどもたちが喜びを感じるなどにつながっていると思います。他にもお祭りの中に中高生が参加し、地域を越えて参加していくといったつながりが市長の掲げる「日本一住みやすいまちづくり」にもつながっていくのではないかと感じます。学校教育の中でもキャリア教育や夏休みのボランティアなど、こういったことにつながることは多いと思いますが、人やお金、場所など厳しい部分も多いのが現状です。
G 委員	保育の現場では、いいだ型自然保育や地域を巻き込んだ保育ということを掲げて保育をしています。それぞれの地域に行くと、「地域の子は地域で育てる」という熱い思いを感じます。例えば、サッカーを教えることを通して「体を動かす楽しさを伝えたい」という熱い思いでコーチに来ていただいたり、地域の方と種まき苗植えから一緒に行き、収穫して食べるころまで年間を通して「一緒に楽しもう」という声もいただいたりしています。「伝統行事を伝えたい」ということでおやすづくりも丁寧に教えてくださっています。こどもたちは「こんなに愛されている」といったことを確実に実感しながら育っているため、「飯田っていいな」という思いにつながっていくのではないかと考えております。 中高生がボランティアで現場に来てくださり、働くことやこどもと触れ合う楽しさも感じてもらっています。教育委員会から依頼を受けて、小学校や高校、短大などに行き、現場の話をする機会がありますが、いいだ型自然保育を中心として話をしますと、「知らなかったけど、こんなにも飯田っていいところがいっぱいあるのですね」「気づかない飯田のいいところがこどもの頃に知れていいですね」といった内容の感想をくれる中高生もいます。こういった声はすごく大事だと思ってい

	ますので、計画の中にたくさん反映されていていいと思いました。
H 委員	教育現場にいますと、こどもがまんなかというところ、中学生が職場体験を通して社会の大変さを実感して感想に書いてくれたり、自分の親の大変さを感じてくれたりしています。それぞれの事業所や企業が中学生を受け入れてくれることで、中学生もつながっていけると思うため、そういったこともプランに反映できるといいかと思いました。そこをバックアップして進めていけるのが行政だと思います。保護者からよく聞きますのが、どこの課に相談すればいいのかわからないということが多いため、相談窓口の具体的な打ち出しを行い、飯田市の行政が市民の皆さんをバックアップしているという打ち出しにすることもいいのではないかと感じました。
I 委員	地域話題が出ると、必ず公民館が担い手として出てきますが、人的にも経済的にも手一杯であり厳しいことが現状です。こどもを大事にしなければいけないということは地域の全員が思っていることですが、具体的に何をしてあげればいいのか分からないところもあります。コミュニティースクールでも、それぞれのまちづくり委員に出てきてもらっていますが、「こどもを地域で育てる」は具体的に何ができるのか、何をすればいいのか分かりません。放課後こども教室の話ですが、先ほど叱ってくれる地域のおじいさんの話も出ましたが、叱ることに対して今の高齢者の方は非常に気を遣っております。保護者からの苦情などもあるため、先生方が叱ることはなくなってきました。そういった現状で、地域の中でこどもの居場所づくりを行うということは、実際には難しいと感じています。志をもってやっていた方々が年齢とともにやめていく方が多く、人的な問題も含め簡単に解決できる問題ではないと思っています。 今公民館で困っていることとして、高校生から 4.50 代くらいまでの方が、かつて接触があった方たちも切れていってしまっています。その年代の方々に子育てについて地域で活躍していただきたいと思っています。

5 報告事項

- (1) 地域型保育事業（小規模保育事業 A 型）の施設類型の変更について
（齊藤保育家庭課保育係長より資料 No. 2 の説明）

6 その他

7 次回開催予定

日時：令和 6 年 12 月中下旬の予定

8 閉会